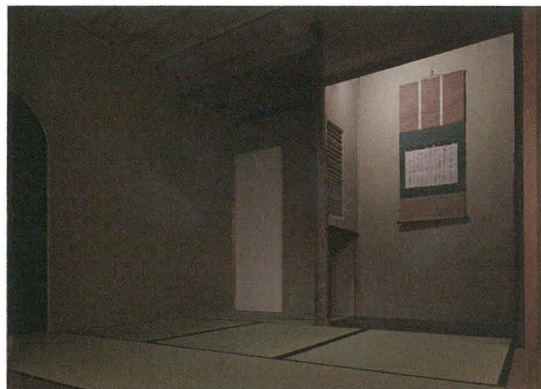


伊藤若冲、西郷隆盛等の名品が一堂に会する「美祭」。



ギャラリー2階には茶室も設置。和洋折衷の空間で美術を味わえる。



柴田是真

前田青邨

株式会社 加島美術 www.kashima-arts.co.jp

■東京都中央区京橋3-3-2 ■TEL 03-3276-0700

■開廊時間 10:00~18:00 ■定休 日曜・祝日

「美祭 - BISAI -」

10月10日(土)~10月21日(水) 会期中無休

江戸時代~近現代の約420点の美術品が集結する展示販売イベント。全作品が載った特製カタログは読み物としても楽しめる。10月18日(日)には若林覚氏(練馬区立美術館館長)の予約制トークイベントを実施。詳細はウェブサイトにて。

加島美術が伝える 「変わらぬ美。新しい美。」

「古美術」と聞いて「敷居が高い世界」「古臭い趣味」といった印象を受ける人は少なくないだろう。そんなイメージを一新するギャラリーが東京の京橋にある。江戸時代から近代に至るまでの日本の古美術を中心に、国内外の現代美術をも扱う加島美術だ。

2フロアにわたり多数の作品が展示されている同社のギャラリーは、コンクリート打ちっぱなしのモダンな空間がその大半を占める。古い掛軸や屏風などが現代的な空間にも驚くほど調和することを示すための内装だ。

ギャラリーを訪れると、古来受け継がれてきた日本の美術品たちが、和室でのみ輝きを放つわけではないことがよく分かる。加島美術のモットーはあくまでも「美」の本質にこだわり、因習にとらわれず様々な角度から日本美術の魅力に光を当てていくこと。社長である加島林衛は「お客様一人ひとりに多くの作品をじっくりと観て頂き、ご自身の好みを自由に見つけ出してもらいたい」とも語る。

近年では国内外の現代美術も積極的に取り扱っている同社。古美術商として研ぎ澄ましてきた「審美眼」と「真美眼」という2つ

の「眼」を武器に、独自の視点で選定した多彩な作品を世界に向けて発信している。これまでに扱ってきた作家は写真家から抽象画家、新進気鋭の日本画家まで。加島美術の慧眼にかなえばジャンルや時代に境目はない。変幻自在な展示は多くの美術ファンを楽しませている。

そんな加島美術が10月に実施する美術品の展示販売イベント「美祭 BISAI」は同社の思いが集約された渾身の企画だ。毎年2回、春と秋に開催されており今秋で18回目を数える。イベントでは約420点にのぼる日本の美術品が一堂に集結。加島美術の「眼」が射抜いた美術館クラスの名品・優品を、心ゆくまで楽しめる。



「芸術に境界線はない。お客様一人ひとりの感性で自由に作品を楽しんでもらえたら」と語る社長の加島林衛。